

新しい年を迎えて

信徒代表 坂本規子

あけましておめでとうございます。

昨年 5 月には新しく姫路中ブロックに派遣された松永神父様を迎え教会の働きがはじまりました。大きな行事としては大阪教区の青年と子供の練成会が姫路地区で開催され、また中ブロックの堅信式では 54 名の方たちが堅信をうけることができ恵みの多い一年だったと思います。そして 12 月 8 日から「いつくしみの特別聖年」が始まりました。12 月 13 日には大阪カテドラル聖マリア大聖堂と仁豊野ヴィラに「聖なる扉」が設けられ、開門しています。全世界で開かれる扉は、「神のいつくしみの大いなる扉」を示すもので人々の悔い改めを受け入れ、神のゆるしの恵みを与えるため、惜しみなく開かれると教皇様は語っておられます。また「神のいつくしみの扉が開いているなら、私たちの教会や私たちの愛、共同体や小教区、施設や教区もまた開いていなければならず、そうして私たち全員が神のいつくしみを人々にもたすために出向いていけるようにしなければなりません」と呼びかけておられます。またすべての人が小さな扉を開き、主が入ってこられるようにする必要があります。と教えて下さっています。まだ始まったばかりですが今年 11 月の閉門のときまで、教会として、また信徒一人ひとりが何をすることが出来るか祈りながら聖霊の導きに従っていきたいと思います。

さて、もう十数年前になるとと思いますがジャーナリストをしていたアメリカ人の友達と昨年、地震により大きな被害をうけたネパールのカトマンズに行ったことがあります。当時ネパールの王様が暗殺され国政が不安定な時でした。キリスト教関係の雑誌の取材と観光を楽しみに行ったのですが、到着した日から戒厳令が発令され、私たちは 3 日間滞在していた友達の家から一步も外に出ることができませんでした。今のようにインターネットが自由に使えたり、テレビを見ることができなかつたため、ゲームをしたり古いビデオを見ながら過ごしました。私が、その時に見た古いビデオが、イギリスの B B C が制作した「ナルニア国物語」というタイトルのビデオだったことを知ったのはそれから大分たってからのことでした。友達が私に解説しながら見せてくれていたのですが英語が十分できない私は、ただイギリスの子供向けの楽しい物語という理解でした。私も後で知ったのですが、皆さんは、この「ナルニア国物語」が聖書を題材に書かれていることをご存知でしょうか？この物語は第一巻から七巻までの七つの物語が書かれています。2005 年から映画にリメイクされ、今までに三作まで上映されています。作者の C・S ルイスはキリスト者で自身の心の中の信仰のあり方をこの物語の空想の世界で表現しているそうです。「ライオンと魔女」では福音書にあるキリストの救いのことが、まだ映画にはなっていない「魔術師のおい」では罪が生まれるいきさつとそれを贖う勇気のことが、そしてナルニアとは人間の中にある永遠の善と悪の戦いの象徴であるといわれています。物語にでてくるアスロンというライオンは

イエスキリストだということもわかってきます。

私は、最近またこの映画を見る機会があり、改めて神さまは私たちにいろいろな方法でイエス様に会わせてくださっていることに気が付きました。何気なく見ている映画の中でもイエス様に会うことができます。また毎日の生活の中でも、自然の中で、また人を通してイエス様に会うことができます。教会の中だけがイエスに出会える場所ではありません。「わたしは決してあなたを離れず、またあなたを捨てない」と言ってくださるイエス様がいつでも、どこでも私たちのそばにいて助けて下さるという確信をもちながらイエス様が私たちに下さる恵みを見逃さないよう過ごしていく、また「いつくしみの特別聖年」を自分のことだけでなく周りの人を慈しんでいくことのできる一年にしたいと思います。ちなみに宣教チームが月に一回映画会を開いています。その時にこの映画を鑑賞し分かち合うことが出来たらいいですね。今年一年もどうぞよろしく願いいたします。